



1 はじめに

令和3年2月、第25回防災まちづくり大賞「日本防火・防災協会長賞」を頂きました。

9年間の私たちの活動への評価と共に今後のご支援を頂いたものと、喜びと共に引きしめる思いが致しました。

ありがとうございました。



第25回防災まちづくり大賞「日本防火・防災協会長賞」受賞

2 婦人防火クラブと地域紹介

「婦人防火クラブ」とは、町内会組織等の一部として、住宅火災の防止や地域の防火防災意識の普及啓発を目的に結成された全国的組織であります。因みに、私たちが所属する「仙台市宮城野地区婦人防火クラブ連絡協議会」は6支部で構成され、『婦防みやぎの朗読会』の活動も包括しております。

さて、私たちが住む“宮城野区”は、仙台市の北東部にあり、楽天イーグルスのホーム球場がある仙台駅東口から仙台港にかけて、ビルが立ち並ぶ商業エリアや都市型農業地帯があり、その面積は

58km²、人口193,000名、世帯数89,800世帯となっています。10年前、その仙台港のある沿岸部は10mを超える大津波により甚大な被害を受けましたが、今は再開発が進み、新たなまちづくりが期待されております。

また、区名の“宮城野”は、古から枕詞として和歌に詠まれ、“宮城野萩”と共に古人の憧れの地でもありました。

3 『東日本大震災体験文集』と『朗読会』

平成23年3月11日、14時46分、マグニチュード9という東日本大震災により、沿岸部では10mを超える大津波がかけがえのない多くの命を飲み込み、家屋をも失うという誰もが経験したことのない甚大な被害が発生したのです。震災の爪痕がまだまだ生々しい1年後、港支部の総会が開かれました。集まることのできたクラブ員によって、この震災を次世代にしっかりと伝えるため、体験文として文字に残すことが決まり、手分けして仮設住宅やみなし仮設住宅を訪ね歩き、やがて、手作りの一冊「東日本大震災体験文集」が出来上がりました。

その後、後世へのメッセージや深い思いの詰まった被災者の体験記を、このまま本棚に埋もれさせては申し訳ないとの思いが『朗読』という形になり、「仙台市宮城野地区婦人防火クラブ連絡協議会」

の組織の中に『婦防みやぎの朗読会』が発足したのです。



「東日本大震災体験文集朗読会」子供たちによる朗読



「東日本大震災体験文集朗読会」ギター演奏と
キャンドルによる演出

4 『婦防みやぎの朗読会』の活動

年間3、4回の朗読の機会をつくりながら、メインの活動として、平成25年以降毎年3月には「あの日、あの時、私の記憶」と題して、『東日本大震災体験文集の朗読会』を200名の会場で開催しております。昨年はコロナ禍の中において残念ながら中止となり、発災10年目の令和3年の今年が『第8回朗読会』となりました。

体験文を本人が朗読することも多々あります。94名の体験文からは、地震や津波の恐ろしさと共に、人々の優しさや生き抜く強さ、そして、助け合う素晴らしさが真っすぐに伝わってきます。また、体験文には「怒り」や「恨み」の言葉はどの文章にも見当たらず、何もかも失っ

た悲しみの中でさえ感謝の言葉に溢れていることに心が震えます。この体験文集によって、私は東北の地に生まれたことを心から誇りに思うことができました。

また、子供たちにも朗読会に参加して頂いております。子供たちの声には希望があります。震災の記憶がない子供たちが朗読を通して、震災の悲惨さや悲しみを心で理解し、未来へのメッセンジャーになってくれることを願っております。

また、朗読を聞いて被災者の悲しみに共感し、苦しみに寄り添うことが防災や減災を考える上での原点ではないだろうか、この頃思うようになりました。

5 最後に伝えたいこと

災害時に生き残るために二つのことをお伝えします。

①津波を侮るなかれ！

被災者の共通のメッセージがこれです。

高台に逃げる！ 遠くに逃げる！ 逃げ遅れた時は「垂直避難」、高いビルに避難する。忘れ物があっても絶対に戻ってはいけません。

②命てんでんこ

三陸地方に伝わる有名な言葉です。

家族を心配して戻ったために津波に流されたという話をよく聞きます。各々が自分の命を守る。生きてさえいれば必ず家族に会えます。是非、家族で災害時の行動を話し合うことをお願い致します。

